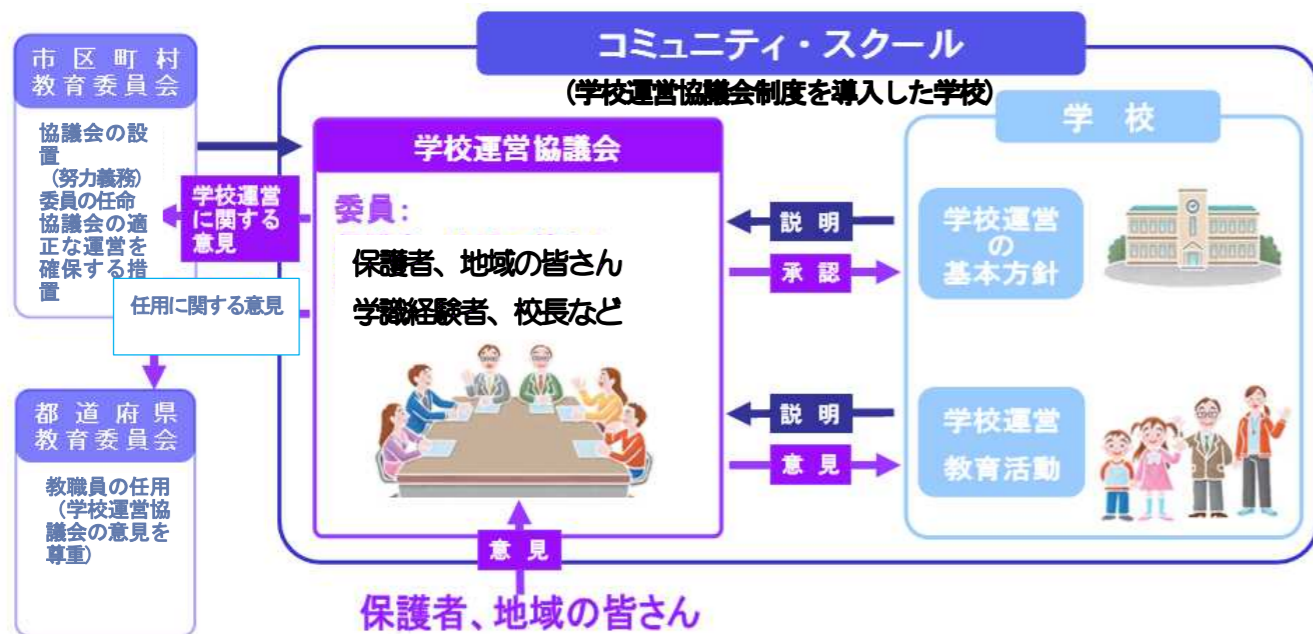


コミュニティ・スクールについて

学校運営協議会制度を導入した学校

- ◇ コミュニティ・スクールは、保護者や地域が学校の様々な課題解決に参画し、それぞれの立場で主体的に子供たちの成長を支えていくための仕組みです。
- ◇ コミュニティ・スクールを導入し、地域の関係者が学校運営協議会の委員になることにより、学校関係者と地域の関係者が情報や課題を共有したり、教育目標や目指すべき子供像について協議を行うなど、学校・家庭・地域の連携・協働体制を構築することが重要です。

地域とともにある学校づくり



コミュニティ・スクールの主な3つの機能

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができる
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項(学校の特色づくりのための意見)について、教育委員会に意見を述べるができる

Q. コミュニティ・スクールの役割は？

- 保護者や地域の皆さんの意見を学校運営に反映することができ、自分たちの力で学校をより良いものにしていくとする当事者意識が高まり、継続的・持続的に「地域とともにある、特色ある学校づくり」を進めることができます。
- ① コミュニティ・スクールは、保護者や地域が学校の様々な課題解決に参画し、それぞれの立場で主体的に子供たちの成長を支えていくための仕組みです。
- ② コミュニティ・スクールを導入し、地域関係者が学校運営協議会の委員になることなどにより、学校関係者と地域関係者が情報や課題を共有したり、教育目標や目指すべき子供像について協議を行うなど、学校・家庭・地域の連携・協働体制を構築することが重要です。

Q. なぜ、コミュニティ・スクールの導入が必要なのか？

(1)本市の児童生徒の現状について

- ① 本市児童生徒の学力及び体力の状況は、全国・埼玉県学力学習状況調査等の結果をみると改善傾向がみられるものの、体力については、特に小学校段階に課題が見られる。
- ② 「いじめ問題」については、和光市子供のいじめ防止条例、学校いじめ防止方針に基づくさまざまな取組を行っているものの、いじめ問題の根絶に至っていない。さらに、今日的な課題として、インターネット等の普及に伴うネット上への書き込みなどの「いじめ問題」も懸念される。
- ③ 不登校問題については、ここ数年、出現率が下回る傾向がみられるが、中学校の不登校率の改善が求められる。
- ④ 全国学力学習状況調査等の結果から、家庭における学習時間や運動時間は全国平均より短い傾向にある。

(2)学校の適正配置、適正規模について

本市では、児童生徒数がまだ右肩上がりであり、教室不足傾向にある学校と小規模化しつつある学校との偏在が見られる。中学校では、校区の広域化による適正配置・適正規模の面での課題がある。また、急激な都市化における学校と地域との関係の希薄化が危惧されている。

(3)国や県の動向について

- ① 全国的な教育課題として、学校統廃合、いじめ、暴力、ICT・情報化、少子高齢化、核家族化、道徳の教科化、外国語教育、アクティブラーニング等、子供や学校の抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠となっており、より一層、地域、保護者との密接な連携を図った学校経営が求められている。
- ② 教育再生実行会議『「学び続ける」社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について』第六次提言(平成27年3月4日)では、教育がエンジンとなった地方創生の観点から、次の提言がなされた

少子・高齢化が進展し、地域コミュニティに多様な機能が求められる中で、学校は、人と人をつなぎ、様々な課題へ対応し、まちづくりの拠点としての役割を果たすことが求められます。こうした観点から、全ての学校において地域住民や保護者等が学校運営に参画するコミュニティ・スクール化を図り、地域との連携・協働体制を構築し、学校を核とした地域づくりへの発展を目指すことが重要です。

Q. なぜ、社会総掛かりで子供たちを育む体制づくりが必要なのか？

- (1) 未来を担う子供たちの豊かな成長のためには、社会総掛かりでの教育の実現が必須であり、本市においては、平成12年より学校評議員制度を確立し、これまでたくさんの御意見をいただき、学校運営に反映してきた。学校運営協議会の指定を受けた学校においては、この仕組みを発展させ、さらに多くの地域住民や保護者に子供たちの成長に関わっていただけるような学校にしていくことが期待されている。
- (2) 本市には、多くのNPO、社会教育関係団体がそれぞれの分野で活躍されているが、それらの団体等と学校との連携は十分とは言えず、学校にとっても地域の人材資源の有効活用が課題である。学校と地域が互いにパートナーとして連携・協働し、子供たちの学びを充実させていく必要があることから、その役割を学校運営協議会が担っていくことが期待されている。
- (3) これからの学校は、変化の激しい社会の動向にしっかりと目を向け、教育課程を工夫し、教育活動を展開する必要がある。だからこそ、保護者や地域住民とお互いの情報や課題を共有し、「これからの時代を生きる子供たちのために」という共通の目標・ビジョンを持って、同じ方向性をもって日々の教育活動を進めていくことが重要になっている。

また、近年の小中一貫教育の推進にかかわって、本市においても円滑に実現するためには、教育課程だけでなく、子供たちの家庭や地域の中での学び、発達段階に応じた心の成長等も一緒に考えていくことが大切である。子供たちの義務教育9年について、保護者や地域住民としっかりと話し合っていく場として、学校運営協議会の設置は必要不可欠になっている。

Q. コミュニティ・スクール指定のメリット・魅力は何か？

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組みを導入することによるメリットや魅力として考えられることは、

(1) 組織的・継続的な体制の構築 ⇒ 持続可能性

校長や特定の教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる。

(2) 当事者意識・役割分担 ⇒ 社会総掛かり

学校運営協議会や熟議等を通して、子供たちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子供を育てていくのか、何を実現していくのかという目標・ビジョンを共有できる。

(3) 目標・ビジョンを共有した協働活動 ⇒ 役割分担をもって連携・協働による取組

校長が作成する学校運営の基本方針の承認を通して、学校や地域、子供たちが抱える課題に対して関係者が当事者意識を持って取組むことができる。

コミュニティ・スクールは、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民の皆さんが参画できる仕組みです。当事者として、子供の教育に対する課題や目標を共有することで、学校を支援する取組が充実するとともに、関わる全ての人に様々な魅力が広がっていきます。

子供にとっての魅力

- 子供たちの学びや体験活動が充実する。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育つ。
- 地域の担い手としての自覚が高まる。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができる。

教職員にとっての魅力

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営が実現する。
- 地域人材を活用した教育活動が充実する。
- 地域の協力により子供と向き合う時間が確保できる。

保護者にとっての魅力

- 学校や地域に対する理解が深まる。
- 地域の中で子供たちが育てられているという安心感がある。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できる。

地域の人々にとっての魅力

- 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながる。
- 学校が社会的つながり、地域のよりどころとなる。
- 学校を中心とした地域ネットワークが形成される。
- 地域の防犯・防災体制等の構築ができる。

学校・保護者・地域が手を携えて、

新しい学校づくりを推進していきましょう！

